

トラック輸送情報（平成20年11月分）

平成21年2月17日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線 28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

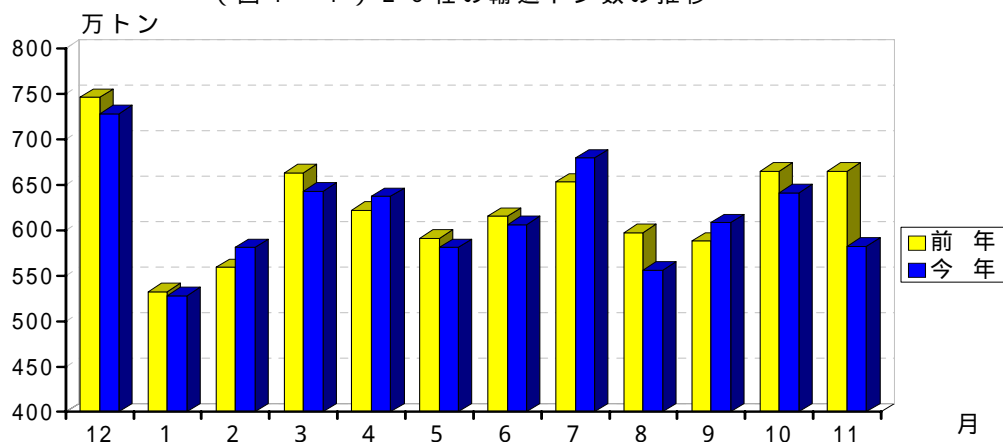
調査対象26社の本月の輸送量は、5,818,078トンで、前月と比べ総輸送量が約59万トン減少したため、前月比90.8%（季節調整済み93.8%）となり、前年同月との比較では、約83万トン減少したため、前年同月比87.5%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ2.6日の減少、前年同月と比べ1.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、258,581トンで、前月と比べ約3千トン増加したため、前月比101.3%となり、前年同月との比較では、約2万3千トン減少したため、前年同月比91.7%の実績であった。

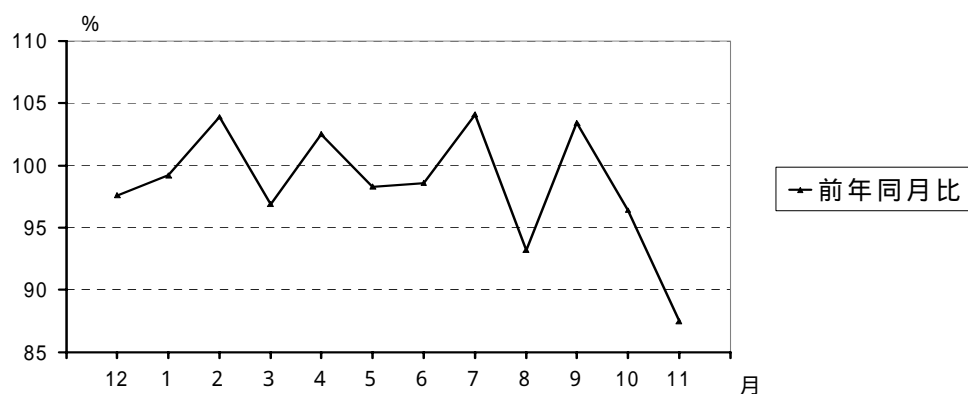
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

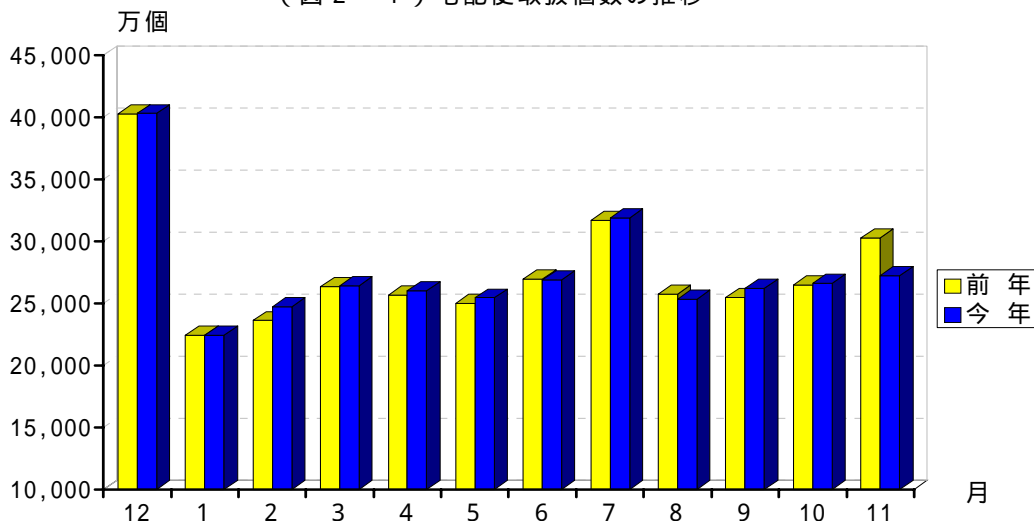
調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、272,448 千個で、前月と比べ 約 618 万個増加したため、前月比 102.3% (季節調整済み 97.2%) となり、前年同月との比較では、約 3,010 万個減少したため、前年同月比 90.1%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2 参照)

注) 平成 20 年 4 月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。

対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、ほぼすべての品目で輸送量が減少した。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減が概ね共通してあげられる。地域的には、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国を中心に貨物量が減少した。

前年同月と比べても、ほぼすべての品目で、不況の影響等に伴う工場・生産地からの貨物減、商社・問屋からの貨物減、倉庫から出る貨物減等により輸送量が大きく減少した。地域的には、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国を中心に全国的に減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	1	12	3	1	野菜	東北、東京、関東	
	金属製品		1	10	10		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4
	機械		1	9	9	2	電気機械、その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7
	化学工業品			9	14		合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品			15	8		織物	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品		2	13	6		加工食品	東北、関東地方、中部地方、兵庫、近畿	7
	日用品		4	10	9		その他の日用品	東北、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 7
	その他	1	6	7	8		宅配便、百貨店配送品	中国	2, 4, 5
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	1	13	1	2		中国	
	金属製品			10	8	3	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 9
	機械			8	8	5	電気機械、その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7, 9
	化学工業品			7	13	3	化学薬品、塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品			14	7	2	織物	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4
	食料工業品		1	10	8	2	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、愛知、大阪、中国	4, 7
	日用品		1	9	9	3	書籍・印刷物、玩具、その他の日用品	全国	4, 5, 9
	その他			9	12	1	宅配便、百貨店配送品	全国	2, 4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 787 社 / 調査対象事業者数 1,074 社）の輸送量は、前月比 94.3%、前年同月比 93.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	94.3%	95.5%	95.1%	92.7%	97.6%	92.4%	94.8%	90.9%	96.0%	93.7%	97.1%
前年同月比	93.9%	97.4%	93.7%	91.2%	102.7%	88.1%	90.4%	88.4%	91.6%	96.1%	123.1%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 95.5%、対前年同月比 97.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「穀物」、「その他の農産品」、「水産品」等の輸送量が減少したほか、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量や工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」の輸送量にも減少がみられるなど、多くの品目で輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 95.1%、対前年同月比 93.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「穀物」、「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」の輸送量にも減少がみられた。輸送量減少の要因として「不況」の影響をあげる事業者が目立ってきている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 92.7%、対前年同月比は 91.2%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 97.6%、対前年同月比は 102.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 92.4%、対前年同月比は 88.1%と低調な動きとなっている。愛知、三重、福井の各県において対前年同月比で 90%を割っており、特に三重県では 81.9%と大きく落ち込んでいる。品目別には、不況の影響等により「機械」、「その他の製造工業品」の輸送量に顕著な減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 94.8%、対前年同月比は 90.4%であった。品目別には、デパート・スーパーからの貨物増等により「日用品」の輸送量に増加がみられた。一方、不況の影響等により「機械」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「化学薬品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 90.9%、対前年同月比は 88.4%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、製造業に係る「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」をはじめとして、ほとんどの品目が工場の減産等により輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 96.0%、対前年同月比は 91.6%であった。品目別には、一部地域で特産品の収穫時期を迎えたことにより「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、「食料工業品」の輸送量にも増加がみられ、特に食料関連品の輸送量の増加が目立った。一方、「紙・パルプ」等において輸送量の減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は若干の増加が見込まれているが、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 93.7%、対前年同月比は 96.1%であった。輸送量減少の主な要因としては、前月より稼働日数が減少していることや、景気の後退等が考えられる。また、燃料は 8 月以降、徐々に値を下げているが、経営は依然として圧迫されているとの声も聞かれた。品目別には、目立って増加した品目は見当たらず、建設関連の需要減等により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」、「食料工業品」、「金属くず」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 97.1%、対前年同月比は 123.1%であった。品目別にみると、「穀物」、「その他の農産品」、「水産品」等の農水産品や「金属製品」、「紙・パルプ」の輸送量は増加しており、近頃、原油価格が安定してきていることが要因と思われる。一方、季節的需要減により「日用品」の輸送量が減少したほか、昨今の円高の影響により輸出量が落ち込んでいること等により「金属くず」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに微増傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		1							1	1	3
	減	2	7		3	1		2		1		16
2. 野菜・果物	増	2	1		1			3	3	4		14
	減	3	3	1	2			2		5		16
3. その他の農産品	増	3	1		1	1		1		1	1	9
	減	6		1		1				1		9
4. 畜産品	増									1		1
	減											
5. 水産品	増									1	1	2
	減	3	1			1		2	1	1		9
6. 木材	増	2	2		1		1	2				8
	減	4	1		1		1	3		2		12
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	1						1			3
	減	1								1		2
9. 金属鉱物	増											
	減						1			1		2
10. 砂利・砂・石材	増	6	1		2	1	1			2		13
	減	10			1	1				2		14
11. 工業用非金属鉱物	増						1					1
	減		2					1		5		8
12. 鉄鋼	増							1		2		3
	減	1	3		2		1	6		2		15
13. 非鉄金属	増											
	減											
14. 金属製品	増		1							1	1	3
	減			1	1		2	3		1		8
15. 機械	増			2	1	1		1		2		7
	減	1	4		3	7	2	7		7		31
16. セメント	増	1			1					3		5
	減	4	2		1		1	2		1		11
17. その他の窯業品	増									1		1
	減		1		1		1	2				5

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	1	2		3				1			7
	減	2										2
19. その他の石油製品	増	4		1	1			2		2		10
	減				1		1	1		1		4
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減				1							1
21. 化学薬品	増											
	減				1		2	2				5
22. 化学肥料	増	1			1					1		3
	減							1		1		2
23. その他の化学工業品	増	1						1				2
	減							2		1		3
24. 紙・パルプ	増						1	1			1	3
	減	4	2	2	1	1	1	4	2	1		18
25. 繊維工業品	増											
	減							1				1
26. 食料工業品	増	1			1		2	1	2			7
	減	1	5	2			5	8	1	2	1	25
27. 日用品	増				1		2	2	1			6
	減					1		3			1	5
28. その他の製造工業品	増		1			2						3
	減			3	1	4	2	4		1		15
29. 金属くず	増											
	減			1						2	1	4
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	1	2							2		5
	減	3		1			1			1		6
32. 廃棄物	増							1	1			2
	減	1	2					1		1		5
33. 輸送用容器	増											
	減	1							1			2
34. 取り合せ品	増		1								1	2
	減		1			1		2		2	2	8
35. その他	増		4	1	3	3	1	1		3		16
	減		3	3	2	1	2	4		4	1	20